学校だより　令和６年度　第１１号
＊＊

協働

＊＊
令和７年３月１７日発行　　奥多摩町立奥多摩中学校

十五の春

校長　原　善哉

私の初任校は伊豆七島の御蔵島村立御蔵島中学校、次に勤務した学校は、今は閉校してしまった奥多摩町立小河内中学校でした。どちらも全校生徒 15 名足らずの、小規模校でしたが、とてもすてきな学校でした。

御蔵島中学校は、三宅島の南にある人口約250人の小さな島の学校で、1階に小学校、2階に中学校がありました。学校行事は小学生と中学生が一緒に行います。また島には高校がありませんので都立高校の受検は、試験監督の先生が入試問題をヘリコプターに乗って運んできて、自分達の学校の教室で受検をします。高校は三宅島にある三宅高校か都内の高校に親元を離れて進学します。島ではこの旅立ちの時を「十五の春」と呼びます。

小河内中学校は、奥多摩町内の学校ですので、知っている人も多いと思いますし、今も小河内地区から通っている生徒のみなさんもいますね。また、ご家族にご出身の方もいらっしゃることでしょう。当時の小河内中学校は全校生徒10名でした。生徒全員がバドミントン部で、熱心に活動していました。御蔵島と比べて小規模なところは似ていましたが、練習試合や大会に生徒達が出かけられるので、地続きであることが嬉しかったです。高校は、当時鳩の巣にあった学生寮（現、鳩の巣荘）から、通える範囲の中で選択することが多かったです。

この二つの学校の生徒達は卒業と同時に親元を離れ、寄宿生活をしながら高校へ通っていました。高校進学という大きな環境の変化に加えて、同時に生活環境も変わり「自立」を求められます。食事は寮の方が準備してくれるにしても、朝起きて身支度をし、自分で洗濯をし、団らんの時間も一人で過ごす。一人暮らしの始まりでした。

進学後、久しぶりに卒業生達に会うと、みな異口同音に言いました。「家族のありがたみが身にしみて分かった」自立は大変かもしれません。しかし早いうちに、この気持ちにたどり着けることは幸せなことだとも感じます。

奥中卒業生も地理的に困難が伴うことでしょう。しかしそんな不便さをもチャンスととらえ力強く邁進してほしい。

令和 6 年度の卒業式が目前です。卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。今年度も立派に成長した奥中生を送り出せることに、この上ない幸せを感じます。奥中生としての自信と誇りをもって、活躍してください。

自分の進路にたどり着くまでには、真剣に考え、たくさん悩み、そして大きな決断をしてきたことでしょう。1つの道を選ぶことは、その他を捨てることです。だからこそ多くの人が悩むのです。私自身も決断に悩むことがあります。そんなときにいつも背中を押してくれる大好きな言葉がありますので、みなさんにも贈ります。

Don't try to make a right decision, but make your decision right.

～正しい道なんてない　あなたが選んだ道が正しい道だ～

今年度、ありがとうございました。令和7年度も「もっと通いたい奥多摩中」を、どうぞよろしくお願いいたします。

３月「変化（成長）を知る」～一年を振り返り、自分の成長を自覚する～

生徒の実践	先生の実践	家族の実践
年度初めと比べて成長したことを考える ４月の自分と３月の自分の最も大きな変化を考える 考え方が変わったところを話す	一人一人の成長を書き出す 一人一人の成長を伝える 毎日の生活の中の小さな成長をほめる	親自身の気持ちの変化を伝える 家族から見た子どもの変化を伝える １日１回子どもの小さな成長を伝える

出典：スポーツドクター辻秀一著「心の力コーチング～いつも勝てるライフスキルの育て方～」講談社